

令和5年度 相談支援実施状況（令和5年4月～令和6年3月分）

事業所名： 相談支援センター つみき

Ⅰ 相談利用者の状況

相談形態	電話	来所	訪問	その他	月別延べ件数計 (件) 計 3458
	3178	96	59	125	

相談者	本人	家族・親戚	その他機関等	月別延べ件数計 (件) 計 3458
	73	649	2736	

地 域	茅ヶ崎	その他地域	実人数 (人) 計 270
	265	5	

障害種別	身体	知的	精神	発達	高次脳	その他	実人数 (人) 計 270
	11	135	7	98	0	19	

※Ⅰの表の数字にⅡ(2)(キ)自立支援協議会の部会運営の数は含まれていません。

Ⅱ 対応事業別の実績

事業項目	年間相談計 (件)
(1)市町村相談支援機能強化事業	373
(2)障害者相談支援事業	3097
(内 訳)	
(ア)福祉サービスの利用援助(情報提供、相談等)	1992
(イ)社会資源を活用するための支援	781
(ウ)社会生活力を高めるための支援	13
(エ)ピアカウンセリング	3
(オ)権利の擁護のために必要な援助	5
(カ)専門機関の紹介	6
(キ)自立支援協議会の部会の運営	12
(ク)上記以外の相談	285

Ⅲ 相談の傾向や課題、その他の取り組み状況など

(1)相談の傾向

ア 相談者の状況

- ・相談件数の合計は前年を大きく上回る数となった。年々新たな機関や支援者との繋がりが増えていったことに比例して、相談件数も増えていったように思う。
- ・茅ヶ崎以外の地域からの相談については、主に茅ヶ崎への転入予定者やその支援者が、転入後のサービス利用についてつみきに相談したというものである。茅ヶ崎から転出後に相談を受けたケースも含まれている。
- ・つみきがこれまで児童の支援を多く行ってきたこともあり、令和5年度の相談の対象者も児童が大半を占めている。
- ・障害種別の発達障害の中には、はっきりとした診断のない児も含まれている。

イ 相談内容

- ・放課後等デイサービスなど、児童系のサービスの利用調整に関する相談が大多数を占めている。
- ・様々な事情から家族による養育に難しさを抱えている障がい児について、母子保健担当の保健師や家庭児童相談室、市障がい福祉課より、福祉サービスの利用等について相談を受けることが複数あった。
- ・家族支援も必要なケースについては、関係機関が集まってのケース会議や電話等による連携を数多く行った。
- ・児童発達支援、放課後等デイサービスともに新しい事業所が市内や隣接市町にでき、それら事業所の利用についての相談も多く入った。
- ・家族による適切な養護が行われず、市外に入所となった成人のケースに対し、入所施設への訪問や成年後見人との繋がりを持ち、継続的な支援を実施した。

- ・児童、成人ともに短期入所利用についての相談が多く入った。利用先について、近年開設が続いた日中支援型グループホームの短期入所枠利用を検討することも多く、見学の同行を複数回行った。

(2)課題

- ・短期入所について、大きな規模の事業所では利用待ちの利用者が多いことなどから中々スムーズな利用に繋がれないことがあった。日中支援型のグループホームについては、職員体制などの問題などから、受入れ枠があっても支援度が高い利用児者については利用に至らなかったり、継続的な利用に難しさが出てしまうなどのことがあった。
- ・未就学児で児童発達支援事業を利用している児の日中一時支援併用について、支給量の上限が月8日に制限されているため、本来であれば児発後、月8日を超えた過ぎしの場が必要な児であってもその利用ができずに家族、親族への負担が増してしまうという状況があった。その時間、保育園を利用している障がい児もいるが、人が多く賑やかな環境に入ることによって不安定になってしまうなどのこともあり、そういった児については日中一時支援を必要な日数利用できることが望まれる。
- ・市立の小学校との連携について、一部の学校とは顔の見える関係性を築ことができている、連携が図りやすくなっている。スクールソーシャルワーカーと連携して支援する機会も多くあった。
- ・福祉サービスで補えないニーズについては、ファミリーサポートやボランティア等の活用を考えた支援を行うことが考えられるが、専門性や安定した支援量の提供に課題がある。
- ・計画相談のニーズが多く有るが、それ以外の委託相談として業務(一般的な相談や自立支援協議会の部会運営業務、その他各種会議への参加やそれに関連する業務)も多くあり、そのニーズに応えられない現状がある。藤沢市のように委託相談事業所と計画相談事業所の役割をはっきり分けるようなことも今後必要かもしれない。
- ・就学後の支援について、状況のアセスメントが不十分なまま福祉サービスの検討が行われているケースが複数ある。困難さには発達特性が起因している場合も多くあるが、家族や友人その他普段関わりのある人との関係や、生活の中での過度な負担やプレッシャーなど他の要因が起因していることも考えられるため、福祉サービスにつないただけでは解決できないことも多い。必要な支援を考える際は、福祉サービスにつなぐといった支援の手立ての話にいきなり進むのではなく、問題の背景を探る作業がより必要だと思われる。
- ・つみきは児童の相談が多いが、その家族自身も支援が必要なケースが多くある。これまで児童の支援に関連することとしてご家族自身の相談を受けることも多くあり、多岐にわたる相談を一相談事業所だけで受けることに難しさを感じていたが、ひとつのケースについては他委託相談事業所と連携し、児童支援をつみき、保護者支援をその委託事業所が担うというような形で連携して支援したケースがあった。今後もそのような連携が必要なケースが多くなっていくと思われ、相談事業所間でそういった連携の在り方について話し合っていく必要がある。
- ・4つの委託相談事業所の役割分担が市民の方々に対して特に明示されていなく、その中のどこに相談したらよいのかわからないという状況が生まれてしまっている。また4委託ともに年齢や障がい種別にかかわらずに相談を受けることにはなっているが、つみきは極端に児童の相談に偏ってしまっている現状がある。4委託それぞれの専門性を高めていくのか、4委託が年齢や障がい種別に関わらず満遍なく相談を受けていける形を整えていくのか、委託元の市の考えを確認しながら今後関係者間で協議し、市民の方々が相談先を選ぶ際の目安を何かしらの形で示していく必要がある。

(3)その他の取り組み等

- ・令和3年度に自立支援協議会つながり支援部会で実施した小学校と放課後等デイサービス事業所との連絡会について、部会自体は終了したが令和5年度についても、つみきとして調整する形で、浜須賀小学校との間で実施した。